

学生の皆様へ

2023年7月20日
埼玉医科大学短期大学

学長 丸木 清之
副学長 久保かほる

生成 AI 等の利用について

生成 AI(人工知能)に対する基本的な考え方

2022年11月末に OpenAI が公開した ChatGPT は、AI と「対話」しながら文書作成や要約、翻訳、文章の修正・トーン変更、試験問題作成、調査・分析、ディスカッション、感想文の作成など様々な応用が可能となりました。その後、Google による「Bard」、Microsoft による「Bing AI Chat」、Adobe による「Adobe Firefly」などが次々と発表・公開され、対話型 AI のみならず、プレゼンテーション用スライドや画像を生成できる AI、大量データの分析・視覚化ができる AI などあらゆる分野で応用可能な生成 AI が利用可能となりつつあります。また、これら生成 AI はその性能が急速に高度化しており、私たちの社会に大きな変革をもたらす可能性があります。生成 AI の利用については、世界中で検証が行われているだけでなく、教育機関においてもどのように活用・規制するかについて活発に議論が行われています。生成 AI はインターネット上の膨大な情報を学習し、幅広い分野の様々な質問や要求に対して、自然言語による対話形式で瞬時に回答文章や図表・画像を生成することが可能です。その一方で、多くの不利益も指摘されており、特に学生の皆さんには注意して頂くべきことが多くあります。

生成 AI の問題点

高性能の「人工知能」が作り出したものといっても、生成 AI がしていることは人間が行っているような「思考」ではなく、与えられた指示に対して確率的に高い事象を引き出す「予測」に過ぎません。また、生成 AI が学習している情報の大部分は英語圏のもので、日本語の情報は数%に過ぎず、わが国の実情にそぐわない回答をしばしば提示します。さらに、インターネット上のきわめて多くの情報を学習する過程で、特定の分野ではフェイク情報を学習していることがあります。従って、生成 AI の生成する文章や画像などの情報は、正確で信頼できるとは限りません。医療や看護の領域では、疾患のことを尋ねると、他国(主に米国)の診断基準、診療ガイドライン等を元に結論を導いたり、わが国の保険診療では認められていない検査・治療を勧めてきたりもします。生成 AI が生成したレポートは、かつての翻訳ソフトウェアのようなたどたどしい日本語ではなく、流暢な日本語を駆使し、筋道だった内容を返してきますが、内容が薄っぺらく、当たり前のことをもっともらしく語っているだけのことも多いのです。皆さんが内容を自分自身で検証せずに生成 AI の結果をそのまま使うと、平凡で魅力の乏しいレポートになるだけでなく、内容に不備や致命的な誤りが生じ

る危険性もあります。何よりも自分自身で考え、物事に積極的に取り組んでいく姿勢が失われてしまうことを私たちは非常に危惧しています。さらに、生成 AI に患者さんのデータを入力してしまうと、個人情報の漏洩につながるおそれもあります。

生成 AI の利用と制限

生成 AI はピンポイントの情報の検索や、定型的な文章の作成にはきわめて威力を発揮し、今後さらに進化すれば、情報社会の基盤的技術になると考えられています。皆さんが看護を展開していく上で、過去の有用な情報を短時間で分析してまとめ、現在直面している問題に応用していくのならば、強力な武器になり得ることは間違いなく、質の高い看護に貢献することでしょう。ただ、現時点では生成 AI が発展途上にある不完全なものであると考えられるため、本学では守って頂きたいルールを策定しました。以下の項目を遵守し、適切に生成 AI を利用してください。

- ① 生成 AI が生成した内容を鵜のみにせず、裏付けとなる文献を自分自身で検索し、内容の正しさを検証してください。
- ② 課題、レポート、論文を作成する場合は、生成 AI だけを利用して作成しないこと。また、課題等の作成に生成 AI を使用した場合は、その旨を記載し、どの部分で使用したかを明示すること。文章の校正、文体の変換、句読点や文章の区切りの調整などに利用するのは構いませんが、内容の大部分を AI で生成することは認められません。部分的に使用した場合には、「この課題作成にあたっては、文章の校正のみ、ChatGPT を使用しました。」などの注釈を付けることを必須とします。これらが行われていないと判断された場合には、理解度の確認のため、担当教員との面談が行われることがあります。
- ③ 生成 AI に質問を入力する際は、実習等で知り得た患者の個人的情報を入力しないよう、細心の注意を払うこと。患者の個人名だけでなく、受診日・入院日・入院病棟名・詳細な病状などは患者を特定されてしまう危険性があります。個人情報の漏洩が明らかになった場合は、本学規定にのっとり、処罰を受けることになります。

今後の対応について

今後、生成 AI はさらに進化し、もっと皆さんに身近な存在となるでしょう。それに応じて有益性が増すと思われませんが、不利益も増大する可能性があります。今後も必要に応じて皆さんに必要な情報を提供するとともに、注意喚起を行いますので、大学の発出する通達などに目を通すようにしてください。不明の点は担当教員に遠慮なく聞いてください。